

## 令和7年3月期 通期見込及び中間決算概要（連結）

### 1. 通期見込及び中間決算実績

表の右側の丸囲み番号について、2ページ以降に解説を記載しています。

（単位：億円（単位未満切捨て））

区分		R6年度 通期見込 ※1	R5年度 通期実績	増減		R6年度 上期実績	R5年度 上期実績	増減
営業収益	高速道路事業	13,251	10,314	2,936		4,810	5,002	▲191
	料金収入	7,698	7,613	85	①	3,954	3,839	115
	道路資産完成高	5,511	2,659	2,851	②	837	1,147	▲309
	その他	41	42	▲0		17	15	1
	関連事業	542	456	86		204	199	5
	S A・P A事業	330	311	18	⑦	167	155	11
	その他の事業	211	144	67		37	43	▲5
計	13,793	10,770	3,022		5,014	5,201	▲186	
営業費用	高速道路事業	13,280	10,268	3,011		4,653	4,905	▲252
	道路資産賃借料	5,450	5,406	43	④	2,787	2,710	76
	道路資産完成原価	5,511	2,659	2,851	③	837	1,147	▲309
	管理費用	2,319	2,202	116	⑤	1,028	1,048	▲19
	関連事業	489	402	87		175	175	0
	S A・P A事業	285	264	21		139	132	6
	その他の事業	203	137	65		36	42	▲6
計	13,770	10,670	3,099		4,828	5,081	▲252	
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲29	46	▲75	⑥	157	96	60
	関連事業	52	53	▲1	⑨	28	23	5
	(うちS A・P A事業)	44	47	▲2	⑧	27	23	4
	計	23	99	▲76		185	119	66
経常利益	48	132	▲83		204	131	72	
当期（中間）純利益※2	37	106	▲68	⑩	147	103	44	

※1 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

※2 「当期（中間）純利益」には、「親会社株主に帰属する当期（中間）純利益」を記載しています。

（注）当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	S A・P A事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理
	その他の事業	受託事業、駐車場事業、トラクターミナル事業、コンサルティング事業等

※文中の丸囲み番号は、1 ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

## 2. 通期見込の解説

### (1) 高速道路事業

- ① 料金収入は、前期に比べて交通量の増加が見込まれ、対前期 85 億円 (1.1%) 増の 7,698 億円となる見込みです。
- ②③ 道路資産完成高及び道路資産完成原価は、対前期 2,851 億円増の 5,511 億円となる見込みです。  
なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「高速道路機構」といいます。）に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。
- ④ 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期 43 億円増の 5,450 億円となる見込みです。
- ⑤ 管理費用は、前期に比べて、外注費（労務費及び材料費等）の増加等を見込んでおり、対前期 116 億円増の 2,319 億円となる見込みです。
- ⑥ 高速道路事業の営業利益（▲損失）は、対前期 75 億円減の▲29 億円となる見込みです。

### (2) 関連事業

- ⑦ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、対前期 24 億円 (2.5%) 増の 1,004 億円を見込んでおり、S A・P A事業の営業収益は、対前期 18 億円増の 330 億円となる見込みです。
- ⑧⑨ S A・P A事業の営業利益は、減価償却費などの増加により対前期 2 億円減の 44 億円、関連事業全体では対前期 1 億円減の 52 億円となる見込みです。

### (3) 全事業

- ⑩ 最終損益は、対前期 68 億円減の 37 億円となる見込みです。

※文中の丸囲み番号は、1ページの表の右側に記載の番号と対応しています。

### 3. 中間決算実績の解説

#### (1) 高速道路事業

- ⑪ 管内の高速道路の通行台数は、対前年同期 1.5%増の 306 万台/日となり、料金収入は、対前年同期 115 億円 (3.0%) 増の 3,954 億円となりました。
- ⑫ 高速道路事業の営業利益は、対前年同期 60 億円増の 157 億円となりました。【注】

#### (2) 関連事業

- ⑬ S A・P Aの飲食物販店舗売上高は、対前年同期 20 億円 (4.2%) 増の 517 億円となり、S A・P A事業の営業収益は、対前年同期 11 億円増の 167 億円となりました。
- ⑭⑮ S A・P A事業の営業利益は対前年同期 4 億円増の 27 億円、関連事業全体では対前年同期 5 億円増の 28 億円となりました。

#### (3) 全事業

- ⑯ 当期純利益は、対前年同期 44 億円増の 147 億円となりました。

【注】 冬季における交通を確保するための雪氷対策や維持修繕関係工事の完成が下期に多いことから、高速道路事業の営業利益は下期と比較して上期が大きくなります。

## 【参考】 個別通期見込及び中間決算実績

(単位：億円 (単位未満切捨て))

区分		R6年度 通期見込 ※	R5年度 通期実績	R6年度 上期実績	R5年度 上期実績
営業収益	高速道路事業	13,220	10,285	4,800	4,993
	料金収入	7,700	7,615	3,956	3,840
	道路資産完成高	5,511	2,659	837	1,147
	その他	9	11	6	6
	関連事業	276	210	78	81
	S A・P A事業	112	108	57	54
	その他の事業	163	101	21	27
	計	13,496	10,496	4,878	5,075
営業費用	高速道路事業	13,252	10,258	4,631	4,878
	道路資産賃借料	5,450	5,406	2,787	2,710
	道路資産完成原価	5,511	2,659	837	1,147
	管理費用	2,291	2,192	1,006	1,020
	関連事業	260	194	70	73
	S A・P A事業	100	94	49	46
	その他の事業	160	100	20	26
	計	13,513	10,452	4,701	4,951
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲32	27	168	115
	関連事業	15	16	8	7
	計	▲16	43	176	123
経常利益		28	86	217	143
当期(中間)純利益		22	72	161	112

※ 「通期見込」は、将来見通し及び計画の基となる前提・予測を含んでおり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。